

結 果 の 概 要

1 人権侵犯事件

(1) 人権侵犯事件の推移

平成19年に全国の法務局及び地方法務局で取り扱った人権侵犯事件（人権が侵害された疑いのある事件をいう。）の総数は22,309件（うち新規救済手続開始（以下「新規開始」という。）件数は21,506件）で、処理件数は21,672件である。

平成14年以降における人権侵犯事件の推移は、第1表のとおりである。

平成19年は、対前年比では、取扱総数で1.3%、新規開始件数で0.8%、処理件数で2.1%の増加となった。また、平成14年を100とした指数では、取扱総数は120.5ポイント、新規開始件数は117.4ポイント、処理件数は118.6ポイントといずれも20ポイント程度の上昇となっている。

第1表 人権侵犯事件の推移

年次	取扱総数	(うち) 新規開始	処 理	未 済	指 数 (平成14年=100)			
					取扱総数	(うち) 新規開始	処 理	未 済
平成14年	18,517	18,323	18,266	251	100.0	100.0	100.0	100.0
15	19,037	18,786	18,643	394	102.8	102.5	102.1	157.0
16	23,271	22,877	22,379	892	125.7	124.9	122.5	355.4
17	24,693	23,806	23,994	699	133.4	129.9	131.4	278.5
18	22,031	21,328	21,228	803	119.0	116.4	116.2	319.9
19	22,309	21,506	21,672	637	120.5	117.4	118.6	253.8
	[対 前 年 比 (%)]							
平成19年	1.3	0.8	2.1	- 20.7				

(2) 人権侵犯事件の新規開始内訳による構成比

平成16年以降の新規開始内訳による構成比は、第2表のとおりである。

平成19年の構成比は、申告（委員受）54.0%、申告（職員受）43.9%の順となっており、この2つで全体の約98%を占めていることは例年と変わりはないが、申告（委員受）の構成比が徐々に増加する傾向にある。

第2表 人権侵犯事件の新規開始内訳による構成比

(単位:%)

年次	総数	申告 (職員受)	申告 (委員受)	人権擁護 委員の通報	関係官公署 の通報	情報	移送
平成16年	100.0	49.7	47.3	0.2	0.6	2.2	0.0
17	100.0	51.6	46.3	0.2	0.5	1.4	0.0
18	100.0	47.6	50.1	0.3	0.4	1.5	0.1
19	100.0	43.9	54.0	0.1	0.3	1.6	0.1

(注) 平成16年4月1日に人権侵犯事件調査規程（大臣訓令）が改正され、従来の受理区分が救済手続開始内訳に変更されたため、平成16年の構成比については、同年4月から12月までの新規開始件数により集計している。

(3) 新規開始事件の種類別指数の推移

平成14年以降における新規開始事件の種類別指数の推移等は、第3表のとおりである。

対前年比では、私人等の侵犯事件は7.2%減少しているが、公務員等の侵犯事件は67.3%と大幅に増加している。私人等の侵犯事件のうちでは、強制・強要が25.7%減少する一方で、プライバシーが15.9%増加している。構成比については、私人等の侵犯事件が82.2%と依然として高い割合を占めているが、公務員等の侵犯事件の割合が徐々に増加する傾向にある。

また、平成14年を100とする指数では、私人等の侵犯事件が104.4ポイントと4.4ポイントの上昇にとどまっているのに対し、公務員等の侵犯事件は、273.7ポイントと173.7ポイントの大幅な上昇となっている。私人間の侵犯事件のうちでは、プライバシー（134.3ポイント）などは増加しているが、暴行・虐待（95.0ポイント）及び強制・強要（91.1ポイント）は減少している。

第3表 人権侵犯事件の新規開始の種類別指数の推移

種 類	指 数 (平成14年=100)						平成19年		
	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	件 数	前年比 (%)	構成比 (%)
総 数	100.0	102.5	124.9	129.9	116.4	117.4	21,506	0.8	100.0
私人等の侵犯	100.0	100.6	122.9	127.8	112.5	104.4	17,677	-7.2	82.2
暴行・虐待	100.0	98.0	98.8	97.0	99.7	95.0	4,937	-4.7	22.9
プライバシー	100.0	100.6	118.7	117.5	115.9	134.3	1,692	15.9	7.9
労働権	100.0	105.3	117.0	118.8	109.7	118.8	1,036	8.3	4.8
住居・生活の安全	100.0	93.0	127.4	133.8	117.3	115.1	4,120	-2.0	19.2
強制・強要	100.0	106.9	142.2	164.8	122.6	91.1	3,947	-25.7	18.4
その他	100.0	106.2	144.6	127.2	114.4	115.6	1,945	1.0	9.0
公務員等の侵犯	100.0	125.8	148.0	155.6	163.6	273.7	3,829	67.3	17.8
警察官	100.0	133.6	187.1	190.5	145.7	162.9	189	11.8	0.9
教職員	100.0	117.5	122.2	124.9	119.6	175.7	975	46.8	4.5
その他	100.0	130.9	161.4	173.5	200.0	366.1	2,665	83.0	12.4

(4) 人権侵犯事件の処理状況

平成19年における人権侵犯事件の処理件数は21,672件で、前年に比べ2.1%増加している。

平成14年以降（平成16年については4月から12月まで）における人権侵犯事件の処理区分別構成比は、第4表のとおりである。

構成比については、例年とほとんど変化がなく、援助が91.0%と最も多く、次いで、侵犯事実不存在（2.6%）、説示（0.9%）、要請（0.8%）などの順となっている。また、処理率は、97.1%と前年に比して若干上昇した。

第4表 人権侵犯事件の処理区分別構成比の推移

(単位:%)

処理区分	構成比		処理区分	構成比			
	平成14年	平成15年		平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
総数	100.0	100.0	総数	100.0	100.0	100.0	100.0
告発	—	0.0	援助	92.0	91.3	92.0	91.0
勧告	0.0	0.0	調整	0.8	0.6	0.5	0.6
通告	—	—	要請	0.8	0.7	0.6	0.8
説示	1.4	1.5	説示	0.4	0.7	0.7	0.9
援助	95.4	94.8	勧告	0.0	0.0	0.0	0.0
排除措置	1.0	0.8	告発	0.0	0.0	0.0	0.0
処置猶予	0.4	0.4	措置猶予	0.6	0.7	0.5	0.4
非該当	1.0	1.3	侵犯事実不存在	2.2	2.6	2.7	2.6
侵犯事実不明確	0.7	1.0	侵犯事実不明確	1.6	1.5	1.1	1.8
中止	0.0	0.0	打ち切り	0.9	0.8	0.8	0.6
打ち切り	0.1	0.1	中止	0.1	0.1	0.1	0.1
その他	0.0	0.1	移送	0.1	0.0	0.1	0.0
			啓発	0.5	1.0	0.9	1.2
			処理率	96.2	97.2	96.4	97.1

(注) 1 平成16年4月1日から人権侵犯事件調査規程（大臣訓令）が改正され、処理区分が変更されたため、平成16年における処理区分別構成比及び処理率については、同年4月から同年12月までの受理及び処理件数を集計している。

2 統計表第1表「種別別 人権侵犯事件の受理及び処理件数」中の「援助」から「啓発」までの各区分をすべて合算した数値（総数：21,953件）を基に算出したものである（19-00-1の脚注4参照）。

3 処理率 = $\frac{\text{処理件数}}{\text{取扱総数}} \times 100$

2 人権相談

(1) 人権相談の受理状況

平成19年に全国の法務局及び地方法務局並びに人権擁護委員が取り扱った人権相談（人権問題に関して国民の相談に応じ，その過程で必要な措置を採ることにより，国民に保障されている基本的人権を擁護し，併せて自由人権思想の普及高揚を図ることを目的とする活動をいう。）事件は，273,269件である。

人権相談の種類別受理件数及び取扱別件数は，それぞれ第5表及び第6表のとおりである。

種類別の件数については，私人等に関するものが246,862件と全体の9割を超える状況にあることは従前と変わりはないが，公務員等の職務執行に関するものが前年に比べて11,810件増加し，構成比も5.3%から9.7%に上昇している。

また，取扱別の件数については，常設相談所が192,706件で全体の70.5%，特設相談所が65,475件で同じく24.0%となっており，人権擁護委員が自宅で取り扱った相談件数は15,088件で全体の5.5%であった。また，人権相談の取扱者別で見ると，人権擁護委員が171,586件で全体の62.8%，職員が101,683件で同じく37.2%となっている。

第5表 人権相談の種類別受理件数

種 類	件 数 (構成比 (%))
総 数	273,269 (100.0)
私 人 等 に 関 す る も の	246,862 (90.3)
暴 行 ・ 虐 待	13,720 (5.0)
差 別 待 遇	5,254 (1.9)
プ ラ イ バ シ ー	9,067 (3.3)
労 働 権	6,497 (2.4)
住 居 ・ 生 活 の 安 全	65,797 (24.1)
強 制 ・ 強 要	21,433 (7.8)
そ の 他	125,094 (45.8)
公務員等の職務執行に関するもの	26,407 (9.7)
警 察 官 員	2,092 (0.8)
教 職 員	5,906 (2.2)
そ の 他	18,409 (6.7)

第6表 人権相談の取扱別件数

取 扱	件 数 (構成比 (%))
総 数	273,269 (100.0)
常 設 相 談 所	192,706 (70.5)
職 員 取 扱	95,601 (35.0)
委 員 取 扱	97,105 (35.5)
特 設 相 談 所	65,475 (24.0)
職 員 取 扱	6,082 (2.2)
委 員 取 扱	59,393 (21.8)
人権擁護委員自宅	15,088 (5.5)

(2) 人権相談の処理状況

平成14年以降における人権相談事件の処理区分別構成比の推移は、第7表のとおりである。

平成19年における人権相談の処理状況は、助言が総件数の84.4%を占め、次いで、切替え（人権相談のうち、人権侵犯に該当する疑いがあるときは、人権侵犯事件に切り替えて調査を開始することをいう。）が7.5%などとなっており、例年に比べ大きな変動はない。

第7表 人権相談の処理区分別構成比の推移

(単位:%)

処理区分	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
助言	91.1	88.8	88.3	86.8	86.2	84.4
切替え	4.6	4.9	6.3	7.5	7.4	7.5
通報	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紹介	0.4	0.4	0.3	0.2	0.2	0.4
その他	3.9	5.9	5.1	5.5	6.2	7.7